

**【取材調整可能・有識者(大学教員)のご紹介】**

4月から障がい者の法定雇用率が2.5%に引き上げ、LGBT理解増進法への批判※1

**独り歩きする『感動ポルノ』※2 自分の中の権力と付き合う方法****差別は「他者を理解したい」と思ったときに生じる摩擦熱！教授が明かす差別の本質**

摂南大学 現代社会学部 現代社会学科 好井 裕明（よしい ひろあき） 教授

摂南大学（大阪府寝屋川市、学長：久保康之）では、9学部17学科にわたる専門分野を持つ教員への取材を受け付けています。今回は、**摂南大学 現代社会学部 現代社会学科の好井 裕明 教授**を紹介します。

差別禁止運動に参加する一方で、家に帰ると妻に対して「早く風呂の準備をしろ」「お茶持ってきて」など、従来の性別分業にとらわれた態度をとる男性。このように、「差別はいけない」と頭で思っている、無意識の思い込み（アンコンシャスバイアス）により差別をしているという例や、差別を受けている人が差別をしているという例はあらゆる場面で見られます。**人は誰もが差別する可能性を持っており、自分の中にある権力と付き合っていく必要があります。**

差別ではなく多様性を尊重する社会を実現する動きとして、「障害者の雇用の促進等に関する法律」が改正され、4月より従業員が40人以上の企業で障がい者雇用率が2.3%から2.5%に引き上げられました。2026年7月には2.7%に引き上げられます。また、今年8月にパリで開催されるパラリンピックでは、女子の種目数が235種目と過去最多となり、障がいの重いクラスの種目が増加するなど、多様性を尊重する動きが高まっています。パラリンピックを『感動ポルノ』として報じることへの批判が近年高まっており、東京パラリンピックではボッチャやゴールボールなどのパラリンピックならではの競技への認知や理解を深められる報道や、個々の選手についても、“障がいの克服ストーリー”ではなく、“パラアスリートとしての高みを目指す姿”を報じる傾向がみられました。このように、**あらゆる差別に対して理解を進めようとする動きがある一方、新たに出てくる課題も多数あります。**差別や感動ポルノについての著書を多く執筆する好井教授が、社会学の立場から差別の本質を解説します。

ご取材希望の方は下記広報事務局までご連絡ください。

※1：「LGBT理解増進法」施行 当事者・支援団体からは内容に批判も 企業への影響は <https://www.asahi.com/sdgs/article/14939487>  
※2：主に身体障がい者が健常者に同情や感動を与えるためのコンテンツとして消費の対象にされていることを批判的に表した言葉。

**◆プロフィール**

**所属** : 現代社会学部 現代社会学科  
**職位** : 教授  
**学位・資格** : 文学士・社会学修士・博士（文学）  
**研究分野** : 人文・社会 / 社会学  
(映画表象分析、エスノメソドロジー、日常的差別・排除、  
原爆映画・ドキュメンタリーの社会学、  
社会問題のエスノメソドロジー、日常的差別・排除)



好井 裕明 教授

**◆お話しできること****・差別の基本的な考え方とは “人は誰でも差別する可能性を持っている”**

⇒被差別者でも、別の環境では差別する側になる可能性は大いにあります。

差別とは他者理解であり、他者理解がいかに難しいのか、差別の基本的な考え方を解説します。

**・LGBT理解増進法案の本質 「LGBTの人を理解してあげる」という発想**

⇒「少数者を理解してあげよう」という発想には、自分たちが「理解する・しない」を決める権利があり、差別禁止を入れたくないという意図が見えます。LGBT理解増進法案の本質について解説します。

**・世界唯一の被爆国である日本、戦争で負けたことを反省していない？『ゴジラ-1.0』は反省映画**

⇒アカデミー賞を受賞した『ゴジラ-1.0』は、戦争の反省映画だった？

世界唯一の被爆国である日本はどのように戦争と向き合ってきたのか、また

『ゴジラ』をはじめとする映画やアニメに原爆がどのように描かれているのか、社会学の観点から解説します。

本件に関わる内容を幅広くお話可能です。ご取材希望の方は下記広報事務局までご連絡ください。

※できる限り調整をさせていただきますが、取材のタイミングによってはお受けできない可能性もある旨ご了承ください。

【報道関係者様のお問い合わせ先】

摂南大学広報事務局（アンティル内） 担当：佐藤、姉川、水原、藤井

TEL：06-6225-7781 E-MAIL：[setsunan\\_pr@vectorinc.co.jp](mailto:setsunan_pr@vectorinc.co.jp)

## 社会学の観点から差別の本質を解説

### 学歴

- ・ 東京大学 文学部 社会学科 卒業
- ・ 東京大学大学院 社会学研究科 修士課程 修了
- ・ 東京大学大学院 社会学研究科 博士課程 単位取得満期退学

### 取得学位

- ・ 東京大学 - 文学士
- ・ 東京大学 - 社会学修士
- ・ 京都大学 - 博士（文学）

### 経歴

- ・ 2023/04 - 現在 摂南大学 現代社会学部 特任教授
- ・ 1999/07 - 現在 関西学院大学大学院社会学研究科非常勤講師
- ・ 2012/04 - 2022/03 日本大学文理学部社会学科教授

### 委員歴

- ・ 2017/10 - 2023/09 日本学術会議 連携会員
- ・ 2019/06 - 2022/05 関西社会学会 理事(『ジャーナル現代社会学』編集担当)
- ・ 2018/09 - 2021/10 日本社会学会 理事(研究活動委員会委員長)
- ・ 2015/06 - 2017/06 関東社会学会 会長
- ・ 2013/05 - 2016/05 関西社会学会 理事(編集委員会担当)

### 著書

- ・ 差別ってなんだろう？（全3巻）〔監修〕新日本出版社 2023年03月
- ・ 「感動ポルノ」と向き合う——障害者像にひそむ差別と排除—— 新曜社 2022年1月
- ・ ゴジラ・モスラ・原水爆—特撮映画の社会学— せりか書房 2007年11月
- ・ 差別原論—〈わたし〉の中の権力とつきあう— 平凡社 2007年04月



### 論文

- ・ “ヒロシマの声”を聞き取るために『新社会学研究』(5)5-11 2021年07月
- ・ 見えない恐怖と差別する可能性—新型コロナウイルス感染をめぐる差別や排除をめぐる—『部落解放』(802)122-134 2021年02月
- ・ 戦争娯楽映画を読み解く—山本五十六作品を比較する—『戦争社会学研究』第2号 2018年06月

### 主なメディア出演・掲載

- ・ 朝日新聞 『(日曜に想う) ゴジラは怒りを忘れない 論説主幹代理・沢村亘』 2024年3月17日
- ・ 朝日新聞デジタル 『真の理解は「普通」を作り替える 政治が掲げる「理解増進」との距離』 2023年6月1日

【報道関係者様のお問い合わせ先】

摂南大学広報事務局（アンティル内） 担当：佐藤、姉川、水原、藤井  
TEL：06-6225-7781 E-MAIL：[setsunan\\_pr@vectorinc.co.jp](mailto:setsunan_pr@vectorinc.co.jp)